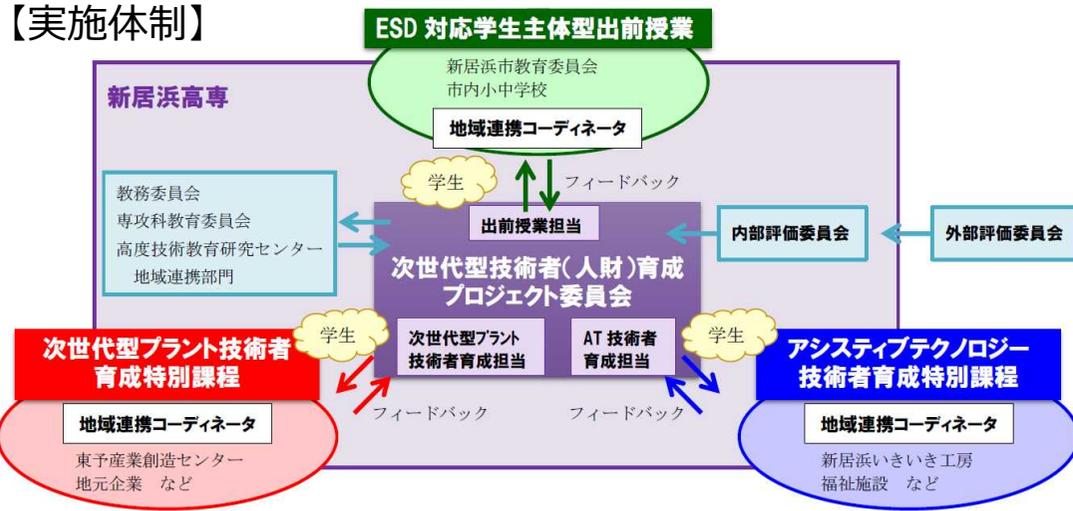




【取組の目的、内容】

地域の基幹産業を支える次世代型プラント技術者、及び近年重要視され地域でも期待感のあるアシスティブテクノロジー（AT）技術者を養成する学科融合的な特別課程を高学年に設置する。前者の特別課程では、東予地域で取り組んでいるプラントメンテナンス人材育成事業と連携して多角的視野・IT・国際化等に対応可能な次世代型プラント技術者育成教育を地元企業とのコーオプ教育を活用して行う。後者の特別課程では、介護工学研究会の活動実績を基にAT技術者育成教育を福祉施設・リハビリ病院・特別支援学校等における社会実装により行う。また、低学年においてはその基礎となるコミュニケーション能力や自己学習力を養うために、市内小中学校の持続可能な開発のための教育（ESD）活動と連携して学生主体型出前授業を進展させる。

【実施体制】



【工程表】

実施事業	平成29年 7月～	平成29年 10月～	平成30年 1月～	平成30年 4月～
技術者育成特別課程	・地域連携コーディネータ委嘱 ・科目設定	・試行授業準備と講師依頼 ・試行授業学生募集	・試行授業実施および改善 ・本格授業学生募集	・本格授業開始
学生主体型出前授業	・地域連携コーディネータ委嘱 ・新テーマ構想	・新テーマによる出前授業教材開発 ・小中学校との交渉	・新テーマによる出前授業教材開発 ・模擬出前授業実施	・新テーマによる出前授業開始

【成果指標】

- ESD対応学生主体型出前授業の実施件数の増加：8件（最近5年間の平均）→25件（H30）
- 次世代型プラント技術者育成・アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程の単位修得者：各20名（H30）
- 地元企業への就職率増加：35%（最近5年間の平均）→40%（H30）



【第4期中期目標期間への展開（見込み）】

- 2つの特別課程を充実させ、新しい教育プログラムを本科・専攻科に設置する。
- 地元企業・福祉施設等との協働により研究を活性化させる。
- ESD対応出前授業・教材開発を発展させて海外提携校への輸出により国際化を推進する。